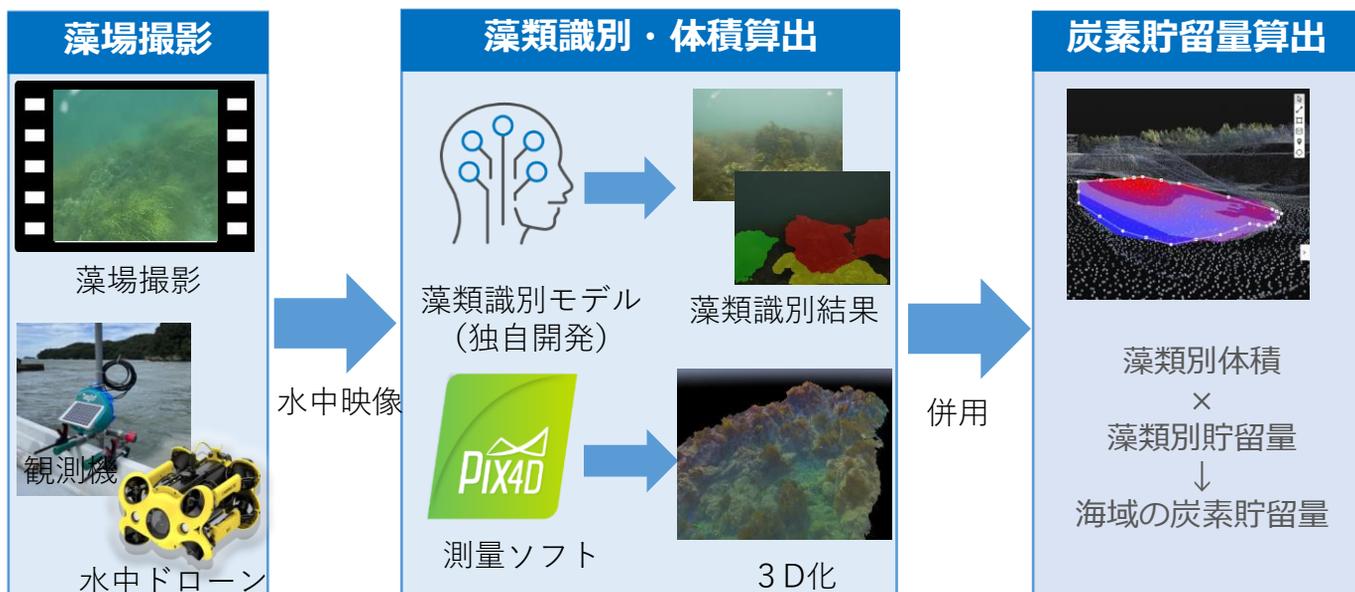


研究の概要

ブルーカーボン貯留量を自動計測するために、観測機(水中カメラ)を漁船に取り付け、位置情報と合わせてクラウドに集約することで、日常的に藻類の繁茂位置を記録し、種類、体積を算出する仕組みを構築する。

技術の詳細・事例

観測機や水中ドローンから得られる水中画像に対して藻類識別を実施、3D化と合わせて、藻類別体積を割り出す。これにより海域ごとの炭素貯留量を自動算出する。



観測結果は、地図上に表示し時系列データとして参照可能とする。



海洋DX研究開発・導入の推進に係る産学官連携(2021年締結)

連絡先: 鳥羽商船高等専門学校 総務課 企画・地域連携係
E-mail: soumu-kikaku@toba-cmt.ac.jp, TEL: 0599-25-8402